

エホバの神VS.アツラーの神

今回はいつもとちよつと違います。書評とか本の紹介とかではない。ぼくが自分で勉強してみたかった。ただそれだけです。テキストは橋爪大三郎さんの『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）を使いました。もちろん勉強の対象は宗教です。いったいぜんたいなんで宗教の勉強なのか。それはもちろんいわゆる「同時多発テロ」のせいです。あの日以来、テレビはずつとニューヨークとワシントンとアフガニスタンとパキスタンのことばかり放送しています。アルカイダがどうの、とか、後方支援がどうの、とか。中東専門家やら元グリーンベレーやら軍事専門家がかけもちで出演して喜々としてしゃべっている。でも、なんか変。釈然としない。よくわからない。もっと困ったことにながわからないのかもわからない。そこでとにかく、ぼくは宗教のことを勉強してみたいと思ったのでした。

いちばん最初のガイダンスのところを読んだだけで、まず驚きました。みなさんは知ってましたか。ぼくは

知っていた……と断言できません。知っていた、ような気がするし、あるいはなんとなくそう感じていただけなのかも、という感じです。なん

くなるのが人情ですよね。ところが、「それは、おお間違ひ。神が、三人いるわけではありません。エホバとはbeing（ありである者）という意味で、名前ではない。アツラーも『神』という普通名詞で、名前でない。一神教では神は一人だけなので、名前が必要なのはつぎに、この三つの神は同一人物。エホバ＝父なる

いるのだがそれは同じ神さまのことを言っているのだということになる。どうなっているのか。いや、神さま自身はこの問題についてどのようにお考えになっているのだろうか。G7とかG8とかいつて、大統領や首相が集まっているいろいろなことを話し合うらしいが、そんなことより神さまに三人（？）集まってもらつてテロ問題を話し合ってもらうG3の方が重要ではないだろうか。そんなことを考えながら、ぼくは橋爪さんの本のイスラム教のパートを読んでいたのでした。いや、恥ずかしいことはもつとたくさんあった。「死んだらどうなるのか？」というコーナー。「死後の世界のことを考えるのが宗教だと、日本人は思っているようです」と橋爪さんは書いています。あつ、ぼくもそうだ。実はそうではなかったみたいなのです。

のことか？ つまり、キリスト教の神なんです。つまり、天にまします我らの父です。それは知ってる。それからイスラム教の神は？ アツラーの神。そうです。じゃあ、ユダヤ教の神は？ エホバの神。当たり。では、この三人、いや三神の関係は？ みんな一神教だから、本当の神の位置を巡って争っている——と言いた

神はアツラーなのです。このことは、ユダヤ教徒、キリスト教徒、イスラム教徒にも十分意識されています。知らないのは日本人だけです。するとですね、アルカイダのスポークスマンやビンラディンさんが「アツラーの神に栄えあれ」と言ったり、アメリカの人たちが「ゴッド・ブレス・アメリカ」と歌ったりして

キリスト教は「最後の審判の日」、死者も全員復活して、裁きを受ける」だからそれまで「死者は墓地でねて待っている」だけだそう。イスラム教もだいたい同じ。ユダヤ教はというと「死ねば士くれない。まう」から「死者などは存在しない」。木村太郎も戦争の話はいいからこういふことを言ってくれないか。言ってくれんよな。



退屈な読書

330

高橋源一朗

イラスト・題字：しりあがり寿

橋爪大三郎 社会学

●編集作業を経ないことには

電子出版を利用したことは、これまでのところ、ない。今後、手に入りにくい資料が電子化されていたり、必要があれば、利用するだろうと思う。

私自身の書いたものは、朝日新聞の記事をはじめ、インターネットで公開されているものもあるはずだ。読売新聞では、インターネットを使って、「マルチ読書」という電子書評（合評会）を行なった。これは、面白かった。電子的でないかたちでは、二十五年ぐらい前から、「頒布会」というシステムを始めて、個人的に、自分の書いたものを有料で複写し希望者に配布している。これを電子化してもよいわけだが、移行のコストに見合う利用が見込めないで、実行するつもりはない。電子的に原稿を提供する場合の、いちばんの問題は、課金であろう。印刷に比べて、「出版」のコストは低い。これは利点だが、同時に「編集」というスクリーニングがかからないので、およそ商品価値のないゴミのような原稿もネット上にあふれることになる。それをよりわかる時間的コストを、私は負担する気はない。やはり「編集」機能は必要で、それを経たものを課金するシステムが、やがて定着すると期待している。

26人が語る

わたしにとつての電子出版

電子出版といつても、そのかたちはさまざま。CD-ROM、DVD、ホームページ、メールマガジン。品切れ本や絶版本の復刻から、プロ作家の産地直送もある。アマチュアも負けてはいない。まだ不満もあるが、この新しい出版方式と急がず焦らず、じっくりつきあつていこうじゃないか。

マンション買い時でない

「いったい、買い時はいつ?」と迷っている人がたくさんいる。だからはっきり答えたい。まだ高すぎる。買つてはいけない。

まず、冷静になろう。ちょっとおかしいじゃないか。

3月に公示地価が発表され、10年連続で値段が下がった。でも、昨年一昨年も、その前年も、こう言っていたじゃないか。

「地価は、下げ止まりつつある」
なのに、なぜ下がるんだ。しかも、たいていこう続いていた。

「マンションは買い時です」
だから冷静になろう。そもそも、不動産会社やゼネコンや、住宅雑誌や不動産鑑定士といった「業界の人々」に、地価はまだ下がるの

か?いまマンションは買い時なのか?と聞けば、
「下がるから、買うな」
なんて言いにくい。そのくらいは想像してみよう。

今年も5%下落の予想

それでもあえて、「業界の人」に質問した。不動産経済研究所の福田秋生課長は、しかし、きっぱりと言った。
「まだ下がります」
福田さんは、笑って頭をかく。

いやあ、あんまり言うと、業界関係者に首を絞められるな……と。そして、とりあえず公式コメントを繰り出した。

「それでも買いたい理由があつて、かつ買えるのであれば、買つてもいいでしょうね」
つまり、そういうことなのだ。この言葉のもつ意味をきちんと解釈することが、かきこい消費者への第一歩だろう。

同研究所の調べでは、首都圏のマンション平均価格は90年に6123万円のピークを迎えた。その後はほぼ下落が続き、昨年も前年

比2・5%減の4034万円。福田さんは、今年さらに5%の下落を見込んでいる。

こうなれば、本音は明確。「買い時ではない」

実は、福田さん自身、パブル絶頂期にマンションを買ってしまった「後悔族」である。埼玉県大宮市郊外の狭いマンションに大金をつぎ込んだ。いま、1時間半の通勤時間に耐えつつ、しみじみ語る。

「当時は、買った幸福があつた。いまでは、買った不幸に映る」
ひとが、懸命に住宅ローンを組

み、一大決心でマンションを買う。そして「資産ができた」と感慨にふける。でも、ちょっと待って。それは、資産でなく負債だ。

金融コンサルティング会社「KPMGフィナンシャル」の木村剛社長は、資産形成の入門書『投資戦略の発想法』で断じている。

「住宅ローンを組んでまで、家を買うべきではない。持ち家は財産形成上、不利な選択だ」

都会で持ち家は不合理

木村さんは、東京都世田谷区の3LDKマンションで、分譲と賃貸の価格を比べた。25年ローンの終了時点で、支払総額は分譲派が1875万円高い。賃貸派がこの差額を金利3%で運用できれば、さらに18年後まで有利だ。

つまり、35歳でスタートして、78歳でやっと同額になる。そして、こんなに我慢した分譲派に残るのが、古くて価値劣化したマンションだけ。これが木村さんの問題提起である。

鋭い現代分析で知られる社会学者の橋爪大三郎・東京工業大学教授

期に買った高価な土地は、赤字が膨らむ原因となるため、大量放出される。それが一層の地価下落につながるという見方だ。

さらに、福井さんは手厳しい。そもそも地価は、戦後ずっとパブル状態にあるという。その不合理を見越してきたマスコミの責任も大きいという。

「地価を評価する不動産鑑定士たちは、不当なインフレ価格を出し続けた。米国では刑事訴追されたが、日本では不問のままだ」

だからこそ、市民の側が、地価の適切な評価手法を手に入れるべきだという。

都市経済研究所は、「収益還元法」を提案する。あえて簡略化すれば、こうだ。

「不動産の資産価値」＝「年間の収益」÷「期待利回り」

では、計算しよう。とりあえず、そのマンションを賃貸にしたときの家賃を、そのまま収益とみる。

期待利回りの考え方は難しいが、福井さんが見積もる8%を使おう。すると、月16万円の家賃が取れるマンションなら、年間収益192万円を0・08で割り、資産価値は2400万円となる。

これは、一つの例だ。だれでも自分がいま住む家で試せるだろう。そうやって、不動産価格の決定権を、自分で手に入れる努力をすることが大切だ。

適正なモノの値段とはなにか。一人ひとりの理念や哲学でもある。

編集 伊藤隆太郎



2000年は記録的な発売ラッシュ。首都圏の新しい民間マンションは9万5635戸だった。あせることはない

マンション 買い時?

も、都内のアパートで暮らす「賃貸派」だ。根本問題は、日本の不動産が高すぎるということだ。高い費用を払っている。住環境は、とうてい満足すべきものではない。土地利用の非効率さや、住宅の耐久年数の短さなど、不合理な政策や習慣が原因だという。そして、そもそも大都市で家を持つこと自体が不合理だ、と指摘する。

「家は、何世代も、百年でもつものをきちんと建て、賃貸というかたちで、世代や家庭の事情に応じて負担するのが合理的。政府は、持ち家政策なるものをさっさと撤回し、都市計画と賃貸住宅の安定供給を重視すべきだ」

まして、「買い時」論については、こうあつさり切る。値段が下がっている途中に「買い時」などあり得ない、と。

官僚の立場から、土地や家の高値を自己批判しているのが、都



いま、時代はデフレ。ものの値段はどんどん下がる。地価もマンションも価値下落が続いている

市公団の青木仁^{あきひと}居住環境整備部次長だ。

地価は不当な国民負担

青木さんは、自分の仕事が行政官であつても、家に帰ればひとりの生活者だという。その生活者の視点で、発言するという。

「土地の所有権と利用権のあり方について、公共性の観点から真摯な取り組みをせず、土地をあたかも投機商品のようにした。この結果、国民に地価という不当な負担を強い続けている」

住宅需要が減るのだから、もち

時価会計でまた下がる

民間シンクタンクの都市経済研究所は、日本の不動産評価の方法そのものが適正でないことを指摘している。やはり、高すぎるのだ。もちろん、買い時ではない。福井

康子主任研究員が苦笑した。

「マンションの営業では、『こんな良い物件は、二度と出ない』というのが常套句です」

二度と出ないという言葉が、何度でも聞ける不思議な世界だ。心配せずに、待てばよい。

福井さんが、今後も地価が下がるという理由の一つに、企業の会計制度に「時価会計」が導入される流れをあげる。

従来、土地は購入時点の「簿価」で計算されていたが、今後は「時価」で処理される方向だ。パブル

tok bos 222 08 intw

^BC-Japan-Pulitzer-Reaction

^Japanese scholars praise U.S. Pulitzer winner who wrote about emperor<

^By CHISAKI WATANABE=

^Associated Press Writer=

¶ TOKYO (AP) _ Japanese scholars praised the American Pulitzer Prize winner who detailed Emperor Hirohito's role as military leader before and during World War II, a portrait at odds with decades of assumptions.

¶ The issue of Hirohito's involvement has been largely taboo in both Japan and the United States, said Hirofumi Hayashi, a professor of political science at Kanto Gakuin University in Kanagawa Prefecture (state), just outside Tokyo.

¶ "Hirohito and the Making of Modern Japan," by historian Herbert P. Bix, which was awarded the Pulitzer for general nonfiction on Monday, is the first book in English on the topic primarily based on historical sources, he said.

¶ "It is significant that the book was highly regarded in the United States," Hayashi said on Tuesday. "It could mean an opportunity to reevaluate how things were handled after the war," including absolving the emperor of responsibility for the war.

¶ U.S. forces portrayed Hirohito and the Japanese people as pawns of their brutal military, hoping to drive a wedge that would bring the nation to surrender and then use the emperor to help them govern and reshape Japan.

¶ The U.S. occupation forces took care to keep any taint of guilt far from Hirohito at the Tokyo war crimes trials, Bix argues.

¶ But in fact, examining both the formal and informal chains of command, Bix found that Hirohito was without question the commander in chief of his military.

¶ He was closely involved in planning the attack on Pearl Harbor, he knew that his soldiers were taking no prisoners, and he issued "burn all-kill-all-steal all" orders in Asia, Bix says.

¶ "The book was a fine work," said Daisaburo Hashizume, a professor of sociology at Tokyo Institute of Technology. "It is wonderful that English speakers can deepen their understanding of the emperor and the imperial system."

¶ He hopes, however, that the book will not leave readers

in doubt about the credibility of Japan's democracy today, or the U.S.-Japan relationship.

¶ The Japanese publisher Kodansha expects its translation of Bix's book to appear here in the summer of 2002.

¶ (cw-jlh-gs)

東京工業大学大学院
橋爪大三郎教授

明石コシニエー電話
会(事務局・神戸新聞明石
総局)の三月例会が十五日、
明石市松の四のホテルキ
ヤッスルプラザで開かれ、
東京工業大学大学院社会
工学研究科教授の橋爪大三
郎氏が「二十世紀を生き
る」をテーマに講演した。中
写真。

橋爪氏は一九四八年、神
奈川県生まれ。七三年、東
京大学文学部卒。同大学
院社会学研究科博士課程修
了後、東京工科大学助教
授を経て、九六年から現職。
九九年から約二年、ハーバ
ード大学リサーチ・日本
研究所の客員研究員。主な
著書に「はじめの構造主
義」など。講演題目は次の
通り。

二十世紀は、前半が戦争
の時代、後半が戦争のない
時代と分けられる。しかし
日本は、一貫して総力戦を
制したといえる。

前半に軍部の暴走を許し
た日本は、過剰に総力戦に
適応し、二十世紀最大の悲
劇を味わった。また後半か
ら現在までは、経済発展に
総力を注ぎ、特に安
全保障の面でアメリカに依
存している国境が足りな
い。すでにアメリカの関心
は中国に移り、経済的な拠
点もアジアへ移りつつあ
る。

二十世紀は、情報・生
命・エネルギーなどの科学
技術・経済・安保などの
アジアの台頭・人口・資源
による地球環境の危機など
の時代にならざる。

日本の二十世紀は、国
会の立法府としての機能を

三二

強化することになり、対
米関係など安保の再構築△
高齢化、地方分権を掲げ、
入れた経済発展戦略△国際
社会との良好な関係確保△
地球環境への配慮△歴史や
文化、教育に重点を置いた
大胆な国内改革が課題にな
るだろう。

すべての人が知恵を出し
合い共に生きていく技術を
生み出すことが、二十一世
紀において大切だといえ
る。

13. 2. 16
神戸新聞

21世紀知識社会の実相

▷9◁

最終回となる第九回「ヒューマン・スタディーズ・フォーラム」(電通総研主催)が三月二十七日、東京・電通銀座ビルで開催された。

まず、橋爪大三郎・東工大大学院教授が「日本の社会科学はこれでいいのか?」をテーマに講演。「社会科学の概念は十九世紀の欧州で生まれ、その社会に当てはまるように定義された。そのため、日本の現実と社会科学の言葉がうまく合致しない部分がどつて生じてしまう。しかし、

Human Studies Forum

言葉の重み失った日本の社会科学

葉は非常に軽いものとして受け止められ、差がないと考えることになっている」と問う。葉は重みを失ってしまっている。言葉は重みを持つべきだ。言語化する作業が必要だ。言語化することで状況が相対化される。あるときは権威を唱え、また(空気が)相対化される。あるときは権威を唱え、また(空気が)相対化される。あるときは権威を唱え、また(空気が)相対化される。

「幸せの原点は遊びにある」と提唱する橋爪大三郎さん。遊びの内容がすっかり様変わりしてしまった現代、子どもたちにどのような影響が出ているのでしょうか。社会構造を研究する橋爪さんに、日本の子どもたちを取り囲む環境、少子化時代の親子関係、そしてご自身の子育て観などを伺ってみました。

橋爪大三郎さん

東京工業大学教授・社会学者

インタビュー 上垣内伸子さん 十文字学園女子短期大学幼児教育学科助教授

はしづめ だいさぶろう ●一九四八年生まれ。東京大学文学部社会学科卒業。同大学大学院社会学研究科専攻博士課程修了。性、言語、権力を三つの説明原理とする「言語派社会学」の構想を展開。フリーで執筆活動を続けた後、八九年東京工業大学助教授に就任。現在、同大学大学院社会学研究科価値システム専攻教授。著書に「はじめての構造主義」「選択・責任・連帯の教育改革」「幸福のつくりかた」など多数。

子どものころの十分に遊んだ経験が、新しい人生を踏み出す原点になる

「「大三郎」さんとは、たくましい名前ですね。」

橋爪 私は六人きょうだいの末っ子で三男。大きく育ってほしいという願いを名前に託して父が付けたのです。でも、体は大きい方ではありません。子どもは、親の希望通りに育たないということですね(笑)。

橋爪 父は普通のサラリーマンでした。明治生まれですから友だちのお父さんたちと比べると一世代上ですが、自分の生活を楽しもうとするタイプで、当時としては進歩的な考え方をした人だったように思います。ご家族が多いと、どんな状況になるのでしょうか。

橋爪 家庭というより社会そのもので、一人ひとり勝手なことができません。親子といえど「集団」の中のつながりでした。末っ子でも、ほかのきょうだいの手前、親に甘えたくても甘えるわけにもいかず、一定の節度がある。親にしても六番目ともなると子どもの扱い方は慣れたもので、私のことを客観的に見ていたようです。

——と、おっしゃると……?

橋爪 例えば小さなころ、朝の食卓に油揚げの入ったみそ汁が出されると、その油の小さな輪がいくつかに分かれて全体に広がっていく様子が



面白く、じっと見ていたことがありました。親はそんな私に、「早く食べなさい」としかつたりはしませんでした。どんな子どもも、瞬間的に物事に集中することがあって、それを邪魔すると後で情緒不安定になってしまうことがあります。私の親は、子どもをたくさん育てた経験から「放っておく」ことの大切さを分かっていたのだと思います。

——ときには放っておく。それは親の無責任でも何でもないのでね。

橋爪 子どもが一人や二人のうちばかりでしょう。三人目、四人目まで育て方に慣れ、五人目、六人目になって、コッが分かってくる。最近はずっと子どもが少なく、親ってこんなものかなと分かったところでおしまいのような気がしますね。

——ところで、最近海外で伸び伸び

と遊ぶ子どもたちを見かけませんね。

橋爪 私はそれを懸念しているのです。子どもたち自身にも、私たち大人にも、幸せの原点は子ども時代の遊びにあると考えています。遊びの重要な要素は、「無心に楽しめる」こと、「ほかのことを忘れるほど熱中できる」ことです。遊ぶことに理由なんてないし、それ自体で完結しています。夢中に何かに取り組んでいる時って、その時は気が付かないけれど、後で「あの時は幸せだったなあ」と振り返ることができず。その時、人は子ども時代と決別でき、新しい人生を踏み出す、つまり大人になるのです。

子どもには何をさせたいと考えています。一方、子ども世代は親世代と異なった価値観をもっているのに、親にうまく甘えている。両者は家族として「共存」しているのです。しかし、これから先、矛盾が出てきます。例えば、親が高齢になり、子どもの援助が必要になったりしても、子どもが親の面倒を見るつもりがあると限らない。そもそも子どもが結婚していないのだから、当てもない。そんなすったもんだの後、パラサイトさせる親も死に絶える。

——その先はどうなるのでしょうか。

橋爪 先の見える子どもは、このままずっと親に頼って過ごせるわけではないことに気が付いて、二人に一人くらいは家を出て、真剣に自立を考えるようになると思います。その後結婚するかどうか、子どもをもつかどうかは、その時、本人が何歳になっているかによるでしょう。

——夫婦形態は築けても、子どもを交えた家族形態までとなると難しいですね。「パラサイト・シングル」現象は減っても、少子化は続きそうです。

橋爪 今後、医療技術がさらに進み、社会意識も変わって、高齢でも子どもをもつことが容易になったら話は

違いかも知れませんね。だけど、そもそも私は少子化を、そんなに悲観してはいないんです。日本は少子化傾向にあります。世界全体として見れば多子化です。少子化が影響して労働力不足になるなら、日本は海外へ資本と技術を提供して、海外に労働力を求めればいい。また労働力として、人間ではなくロボットを活用することも考えられます。地球環境の視点からとらえても、先進国では一人の人間が膨大なエネルギーを消費し、地球の資源を無駄にしています。先進国である日本の少子化は、マイナス面ばかりとは限らないわけです。

——大胆な意見ですね。

橋爪 少子化に拍車がかかっても、視野を広げ視点を変えれば、そのときの対応はいくらでも可能だ、ということをお願いしたいのです。例えば、子

子どもが伸び伸びと育てたいと願う親は少なくありません。しかし、受験という壁があって、親は教育熱心にならざるを得ない。教育費も高くなる。

子どもが伸び伸びと育てたいと願う親は少なくありません。しかし、受験という壁があって、親は教育熱心にならざるを得ない。教育費も高くなる。

子どもには何をさせたいと考えています。一方、子ども世代は親世代と異なった価値観をもっているのに、親にうまく甘えている。両者は家族として「共存」しているのです。しかし、これから先、矛盾が出てきます。例えば、親が高齢になり、子どもの援助が必要になったりしても、子どもが親の面倒を見るつもりがあると限らない。そもそも子どもが結婚していないのだから、当てもない。そんなすったもんだの後、パラサイトさせる親も死に絶える。

——その先はどうなるのでしょうか。

橋爪 先の見える子どもは、このままずっと親に頼って過ごせるわけではないことに気が付いて、二人に一人くらいは家を出て、真剣に自立を考えるようになると思います。その後結婚するかどうか、子どもをもつかどうかは、その時、本人が何歳になっているかによるでしょう。

——夫婦形態は築けても、子どもを交えた家族形態までとなると難しいですね。「パラサイト・シングル」現象は減っても、少子化は続きそうです。

橋爪 今後、医療技術がさらに進み、社会意識も変わって、高齢でも子どもをもつことが容易になったら話は

子どもが伸び伸びと育てたいと願う親は少なくありません。しかし、受験という壁があって、親は教育熱心にならざるを得ない。教育費も高くなる。

子どもが伸び伸びと育てたいと願う親は少なくありません。しかし、受験という壁があって、親は教育熱心にならざるを得ない。教育費も高くなる。

子どもには何をさせたいと考えています。一方、子ども世代は親世代と異なった価値観をもっているのに、親にうまく甘えている。両者は家族として「共存」しているのです。しかし、これから先、矛盾が出てきます。例えば、親が高齢になり、子どもの援助が必要になったりしても、子どもが親の面倒を見るつもりがあると限らない。そもそも子どもが結婚していないのだから、当てもない。そんなすったもんだの後、パラサイトさせる親も死に絶える。

——その先はどうなるのでしょうか。

橋爪 先の見える子どもは、このままずっと親に頼って過ごせるわけではないことに気が付いて、二人に一人くらいは家を出て、真剣に自立を考えるようになると思います。その後結婚するかどうか、子どもをもつかどうかは、その時、本人が何歳になっているかによるでしょう。

——夫婦形態は築けても、子どもを交えた家族形態までとなると難しいですね。「パラサイト・シングル」現象は減っても、少子化は続きそうです。

橋爪 今後、医療技術がさらに進み、社会意識も変わって、高齢でも子どもをもつことが容易になったら話は



面白く、じっと見ていたことがありました。親はそんな私に、「早く食べなさい」としかつたりはしませんでした。どんな子どもも、瞬間的に物事に集中することがあって、それを邪魔すると後で情緒不安定になってしまうことがあります。私の親は、子どもをたくさん育てた経験から「放っておく」ことの大切さを分かっていたのだと思います。

——ときには放っておく。それは親の無責任でも何でもないのでね。

橋爪 子どもが一人や二人のうちばかりでしょう。三人目、四人目まで育て方に慣れ、五人目、六人目になって、コッが分かってくる。最近はずっと子どもが少なく、親ってこんなものかなと分かったところでおしまいのような気がしますね。

——ところで、最近海外で伸び伸び

と遊ぶ子どもたちを見かけませんね。

橋爪 私はそれを懸念しているのです。子どもたち自身にも、私たち大人にも、幸せの原点は子ども時代の遊びにあると考えています。遊びの重要な要素は、「無心に楽しめる」こと、「ほかのことを忘れるほど熱中できる」ことです。遊ぶことに理由なんてないし、それ自体で完結しています。夢中に何かに取り組んでいる時って、その時は気が付かないけれど、後で「あの時は幸せだったなあ」と振り返ることができず。その時、人は子ども時代と決別でき、新しい人生を踏み出す、つまり大人になるのです。

子どもには何をさせたいと考えています。一方、子ども世代は親世代と異なった価値観をもっているのに、親にうまく甘えている。両者は家族として「共存」しているのです。しかし、これから先、矛盾が出てきます。例えば、親が高齢になり、子どもの援助が必要になったりしても、子どもが親の面倒を見るつもりがあると限らない。そもそも子どもが結婚していないのだから、当てもない。そんなすったもんだの後、パラサイトさせる親も死に絶える。

——その先はどうなるのでしょうか。

橋爪 先の見える子どもは、このままずっと親に頼って過ごせるわけではないことに気が付いて、二人に一人くらいは家を出て、真剣に自立を考えるようになると思います。その後結婚するかどうか、子どもをもつかどうかは、その時、本人が何歳になっているかによるでしょう。

——夫婦形態は築けても、子どもを交えた家族形態までとなると難しいですね。「パラサイト・シングル」現象は減っても、少子化は続きそうです。

橋爪 今後、医療技術がさらに進み、社会意識も変わって、高齢でも子どもをもつことが容易になったら話は

子どもには何をさせたいと考えています。一方、子ども世代は親世代と異なった価値観をもっているのに、親にうまく甘えている。両者は家族として「共存」しているのです。しかし、これから先、矛盾が出てきます。例えば、親が高齢になり、子どもの援助が必要になったりしても、子どもが親の面倒を見るつもりがあると限らない。そもそも子どもが結婚していないのだから、当てもない。そんなすったもんだの後、パラサイトさせる親も死に絶える。

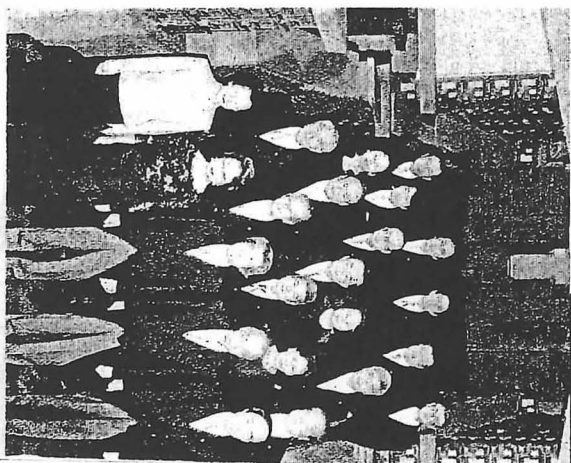
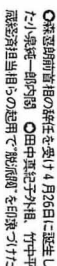
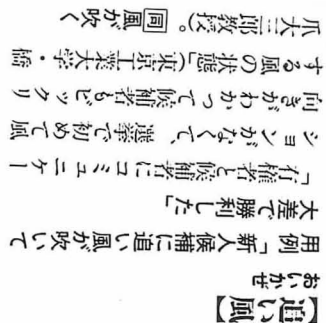
——その先はどうなるのでしょうか。

橋爪 先の見える子どもは、このままずっと親に頼って過ごせるわけではないことに気が付いて、二人に一人くらいは家を出て、真剣に自立を考えるようになると思います。その後結婚するかどうか、子どもをもつかどうかは、その時、本人が何歳になっているかによるでしょう。

——夫婦形態は築けても、子どもを交えた家族形態までとなると難しいですね。「パラサイト・シングル」現象は減っても、少子化は続きそうです。

橋爪 今後、医療技術がさらに進み、社会意識も変わって、高齢でも子どもをもつことが容易になったら話は





新首相誕生！
大騒ぎの永田町で流通する不思議な言い回しの真意を
識者、元秘書、記者の面々が解説

昨年11月の内閣不信任案が、「言明隨意不明」といわれた竹に出版され、日覺傳うきまきまな言葉がツラクエトマツに輝いた。表現で政黨圈に並んで来た。うに、政治家たちは半ば健信犯的にならうとして誤のわからぬ言葉を使つてゐるのだ。これじや難辨なのは無だ。協力を仰ぎながら、政界では、く普通に使われている座間木忠藏（A・ヒラチ）といふ本を二存したうか。今から約100年前

学教授も同様で競争がありませんから、定年まで論文なんか書かなくても安泰なんです。

というように、これら先生と呼ばれる人というのは、難関の資格免許を持っている、独立系の職業なんです。ただし、教師に関しては立場が変わりつつあります。昔は、教師といえば町や村でいちばんの知識人として尊敬される立場でした。しかし、現在はサラリーマンが高学歴化してきており、教師の地位が相対的に低下しているんです。当然、尊敬されなくなった教師のストレスはたまりますよね。

それでもやはり、先生は偉いというイメージはまだまだ健在。エラそうな態度に出してしまうのです。

先生＝尊敬の対象、というのはいまや過去の話。
一生懸命に頑張ってくれていたかたがたも多いので、「誤診医師」や「セクハラ教授」、「イネムリ代議士」に最近では「手錠教師」なんでものいて、「センセイ」は近ごろじゃ、もっともタチの悪い人たちと思われているフシがあります。鼻高々で無神経、無能力なくせに高収入――なににこちらは文句をいうこともできない…。世に跋扈する厚顔無恥な彼らに対する庶民の怒りは増すばかり。

保存版 日本のコマーシャル BEST

月1000本が登場するとも言われるおびただしい数のテレビコマーシャルが私たちの日常をとりまいていきます。コマーシャルはいまや空気のように、そこに当たり前にあるものになってしまいましたが、それでは、私たちの記憶にくっきりとどまり、精神や感性の何かに影響を与えたものとなると、そうたくさんあるわけでもない。多くのものは、日々使い捨てられて、超スピードで過去に飛び去っていくというのも現実です。

時代の感性や気分とともに生きるということを、どこかで必然的にもっているコマーシャルにとって、それも仕方のないことです。が、世紀も変わったことすし（そして、メディアの状況も大きくサマ変わりしそうな気配もあることすし）、ここで一度、20世紀の、とりわけ後半、私たちのくらしの伴走者でもあったテレビコマーシャルの歩みを、遊びながらソーカツしてみようということになりました。

題して、「(20世紀の)テレビコマーシャルベスト100」

選出の方法は、識者による討論などいろいろ考えられましたが、今回はあえて、アンケートという形をとりました。普通の人たちの普通のくらしの中に普通に入りこんでこそ機能するコマーシャルというものの性格を考えたためです。

が、それでも記憶だけが頼りのコマーシャル（映画やドラマのように作品として記録されているわけではありませんから）、そこには自ずと限界があり、このアンケートは、広告をはじめとするクリエイティブな仕事をしている方たち、ある程度、この世界に通じている方たちにお願ひしました。

1000

年代により地域により、さらにはテレビづきあいの濃淡により、自ずと選択はバラつきますが、なるべく各世代にわたるよう、アンケートをお願いしたつもりです。

250人の方たちにお願ひして、有効返答回答数が、182人。その集計した結果が、このベスト100選です。（実際は同票が多数あり、117点がランクインしています）

1票差で選にもれたものも、ここに아가ってきて当然と思われるものが少なくなく（しかも1票差のものが27点ありました）、とりわけ、1本としてうち出していなくても、長い時間をかけてブランドイメージを作りあげていったものなどが、逆に、こういう形にすると残りにくいという矛盾もあつて、編集作業をすすめながら、いささか複雑な思いも残ります。

が、ともあれ、この50年間で流れたテレビコマーシャルの数は、おそらくは何十万本に及ぶはずで、そういう狭き門を突破した、これが日本のテレビコマーシャルベスト100の決定版です。

*アンケートは各人に“私のCM10選”を選んでいただき、1CM=1点として集計した。

*企業名・商品名、広告会社、制作プロダクション等は、原則的にオンエア当時の名称にした。

- ・これまでの広告屋としての在り方なども含めて、痛烈に自分を反省したのでした。(佐倉康彦)
- ・これ以降の日本CMは飽食地獄。(桜井順)
- ・最高に好き。こういうのやりたかった。(佐藤可士和)
- ・人間の本性に根ざしたグローバルな面白さ。(佐藤晃一)
- ・カップヌードルを食べたい!とは思わなかったけど、よく覚えてます。原始人がなんかかわいいそうだなーと思っていた。(佐野研二郎)
- ・気持ちよかった。(サノ☆ユタカ)
- ・新食品時代。(重延浩)
- ・B級のありふれたアイデアが、スタッフの力で超A級に仕上がった傑作。(白土謙二)
- ・日本初世界最高レベルの日本の広告。(杉山恒太郎)
- ・何たって文句なく面白いですから。(副田高行)
- ・9年も前の作品とは思えません。未だに色あせない、このCMはよくおぼえています。(瀧本幹也)
- ・カップヌードルそのものを扱うのではなく、食欲というより抽象的な方向でCMを作っている。それが上手くいっている。(田尻智)
- ・実は今まで一番好きなきなCM。これのせいで自分も広告をやりたい!と思った一本。美大でも、このCMは超話題になった。(田中元)
- ・これはをはずすわけにはいかないでしょう、やっぱり。本当に次が楽しみなシリーズだった。(照井晶博)
- ・スケール感・エンターテインメント性・抜けの良さ。(永井一史)
- ・食の原点を原始時代に求め、そのユーモラスな設定と動きは秀逸。(永井一正)
- ・映像、音声、時代性、話題性、国際性、あらゆる点でベストである。自分がかかわったとは思えないほどすごい。(中島信也)

「そうでない方も」「美しく」ではない、「そうでない方は」「それなりに」しか写らない。そんなことを言い放った広告は初めてだった。タレントを傷つけるだけではない、同時に、商品も傷つけて、その自己批評的笑いが、その後の“面白広告”全盛時代の牽引車となっていく。商品を受け手の側から捉え直し、絶対的なものであった商品の見方を相対化させた。

1980

24票

富士写真フィルム／フジカラープリント
それなりに写ります

加世子「いらっしゃいませ」
希林「あ、これ、プリント、フジカラーをお願いします」
加世子「はい、でき上がりはあしたの夕方になります」
希林「お見合い写真なものですから、特に美しく……」
加世子「フジカラープリントでしたら、美しい人はより美しく、そうでない方は……」
希林「そうでない場合は？」
加世子「それなりに写ります」
希林「あ、それなりにですか」
加世子「あ、お客さん、お名前は？」
希林「あたし？ 綾小路だけど、裏の。さゆり。知らなかった？」
M「フィルムも プリントもフジカラー」



- ・タレントの演技力。(小沢昭一)
- ・当時、閉塞感のなかにあったCMを川崎徹の旋風が解放した。意表をついた商品のほめ方にびっくりした。(小田桐昭)
- ・「それなりに」という発想がすばらしかった。「最高に」ではないもうひとつの価値観を提示した。(梶祐輔)
- ・川崎徹になりたかった。(黒田秀樹)
- ・川崎徹の極致。(桜井順)
- ・真剣に笑いを追求した川崎徹演出の名作。(白土謙二)
- ・子供ながら、希林さんがおもしろいと思った。(鈴木清剛)
- ・たしかに。(鶴見俊輔)
- ・なんといっても川崎徹である。僕にとっては神である。CMと視聴者の関係に革命を起こした。(中島信也)
- ・それなりにという言葉が聴いたときに富士フィルムは余裕のある会社だと思いました。ガツガツしなくても売れるんだなあと思えました。(ねじめ正一)
- ・商品が消費者に満足を与えるとは限らない現実を、CMがみとめたリアリズムを視聴者が楽しむ。(橋爪大三郎)
- ・好きでした。今でも好きですが。(原研哉)
- ・それなりに生きていけばいいんだと、妙に安心した、12才の春。(福里真一)
- ・「言葉」を演出することのお手本。(前田良輔)
- ・二人のやりとりがよかった。(ミヤギユカリ)
- ・岸本・希林さんとアイディア演出に敬服。(山田太一)

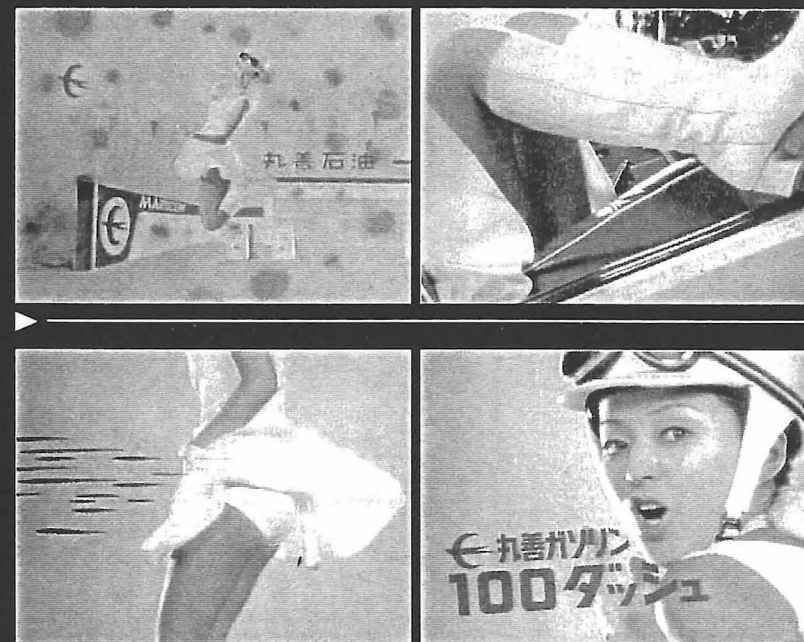
20

1969

15票

丸善石油／丸善ガソリン100ダッシュ
オー、モーレッツ

丸善ガソリンでダッシュした風にスカートがひるがえり、白いパンツが見えてしまう。で、「オー、モーレッツ」というわけだが、きわめてわかりやすいお色気路線であると同時に、このCMを印象づけたのは、小川ローザのつぶやくささやきにも似た「オー、モーレッツ」の一言だった。猛烈時代の男たちをからかっているようでもあり、「あら、やだ」と、誘っているようでもあり。



M「モーレッツ猛烈100ダッシュ！～ ゴーゴーゴーゴー 丸善ガソリン100ダッシュ！」(風に吹かれてスカートがまくれる小川ローザ)
N「オー モーレッツ！」

- ・CMと経済も成立する。という画として見入ってしまいました。女が進出して来た始まりの予感CMでした。(北村道子)
- ・中学生の時に、スカートめくりしちゃうから。(後藤繁雄)
- ・これを見て、女の子のスカートめくりをした。(佐藤可士和)
- ・車時代と女性イメージの変革。(重延浩)
- ・マリリン・モンローを思い出す。(鶴見俊輔)
- ・その健康的なお色気にドキッ。(永井一正)
- ・茶の間にTVが置かれて家族でみるTVは、お色気禁止だったのが、この頃から少しずつ崩れてきた。(橋爪大三郎)
- ・漫遊力。(ひびのこづえ)
- ・ザ・インパクト。(福田敏也)
- ・それゆけどんどの時代、なにがモーレッツだと敵愾心に火がついた。(藤岡和賀夫)
- ・20世紀でいちばんPOP。(前内道彦)

1960~

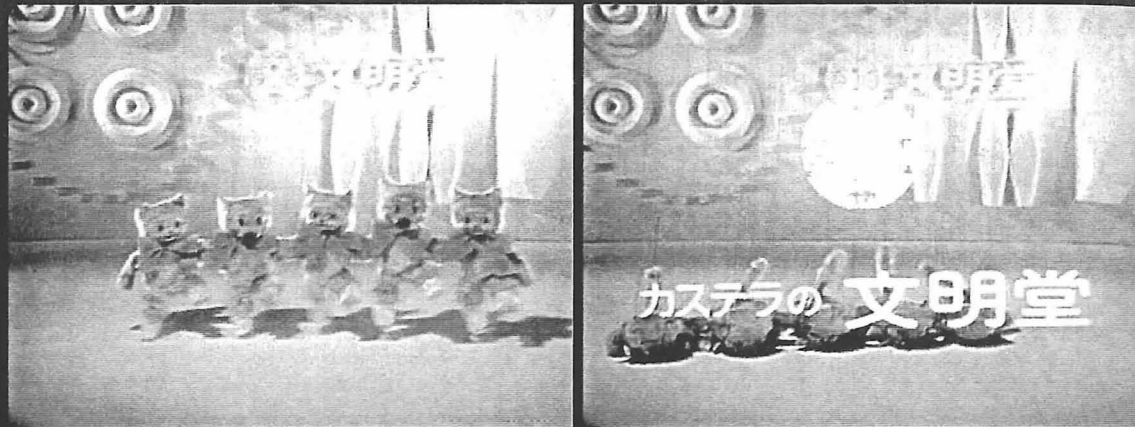
14票

文明堂／カステラ カステラー番電話は二番

pr:大岩伸好 A&P:協同広告・村谷グループ

40年間踊り続ける小グマの偉大なるマンネリズム。「電話は二番」は番号が若い、すなわち老舗を意味していた。

- ・何十年もこれ一本でCMを成立させてきたというのは、やはりすごいことですね。この曲を聞くと「カステラ」と「運動会」という条件反射です。(井坂聡)
- ・シンプル。CMソングのよさ。キャラクターの分かりやすさ。(大林宣彦)
- ・もしかすると80才ぐらいになってボケたら、コレをぶつぶつ歌っているかもしれません。そういう世代なもので。(荻野アンナ)
- ・陽にさらされた印画紙のような詩情はすでに、考古学集蔵庫に似た、文化遺産の域にある。(木村恒久)
- ・小さいころからずっと知っているし、こういうハッピーなマンネリはいいなと思いました。向かって右から2匹目のくまが顔をあげるしぐさが好きでした。(佐野研二郎)
- ・継続は力なり。でも愛されていなければつづけられない。(永井一史)
- ・カステラのためだけに 何十年も流れる宣伝広告。こういうものをくれたら本当にすごいと思う。(中村至男)



M「カステラー番 電話は二番 三時のおやつは文明堂 カステラー番 電話は二番 三時のおやつは文明堂」

1966

14票

レナウン／企業 シルビー・バルタンのワンサカ娘

pl:中久実+松尾真吾+久本省二 pr:松尾真吾 t:シルビー・バルタン m:小林亜星+金井和也 A&P:電通+電通映画社+ホトギスプロダクション

フォーク調の軽快なCMソングが若者に親しまれた。そのCMソングを歌うのは当時の若者のアイドル、シルビー・バルタン。小粋なバリジェンスは、ファッション化する若者向けカジュアルウェアのイメージにピッタリだった。「ワンサカ娘」は毎年アレンジを変えて90年代初頭まで使われ続けた。

- ・この曲が好きです。(安西水丸)
- ・小学校低学年だった私にとってあこがれの大人の世界でした。S・バルタンがフランス語なまりの日本語で歌ったのがいい効果出てました。(荻野アンナ)
- ・外国のスター的歌手が日本語で歌ったのが印象的だった。(柏木博)
- ・CMポップスの原点。(桜井順)
- ・調子よい歌が、都市中流階級の大らかさをふりまいて印象にのこる。(橋爪大三郎)
- ・花のバリ。バリの薫りはあのこと夢のまた夢。レナウンはスゴかった。昭和39年、デンソー大阪の玄関で彼女に会った。(林均)



(歌うシルビー・バルタン)
M「トドライブウェイに春が来りゃ
イエイエイエ、イエイエイエ イエ
イエイエ、イエイ プールサイドに
夏が来りゃ イエイエイエ、イエイ
イエイ イエ、セ・ピアン
※レナウン レナウン レナウン
レナウン娘が おしゃれでシックな
レナウン娘が ワンサカ、ワンサ
ワンサカ、ワンサ イエーイ イエ
ーイ イエイエーイ

テニスコートに秋が来りゃ イエ
イエイエ、イエイエイエ イエイエ
イエ、イエイ ローブウェイに冬が来
りゃ イエイエイエ、イエイエイエ
イエイ
※(繰り返し)

1973

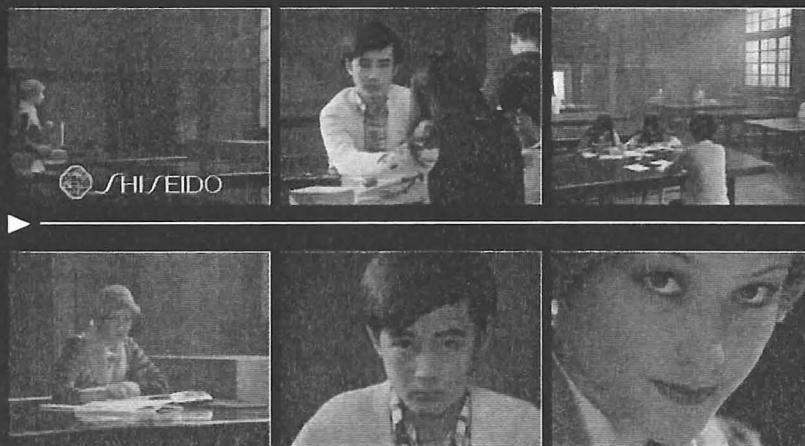
14票

資生堂／シフォネットパウダーアイシャドウ 図書館

pl/dir:杉山登志 c:田代陽彦+小野田隆雄 t:エミリー吉田+佐藤浩介 m:桜井順 A&P:日本天然色映画

図書館で出会った美しい人に心をときめかす少年。だれしも憧れるそんな一瞬を、永遠の映像に封じこめた傑作。

- ・少年の憧憬とやさしくほほえみの目で返す大人の女性、ドキドキ、ゾクゾクするほど心理を巧みにとらえた大好きなCM。(天野幾雄)
- ・ストーリーも、映像も、演技も、音楽も、上等な映画のひとコマ。(犬山達四郎)
- ・亡命寸前、杉山登志の大抒情。(桜井順)
- ・大好きだった。でも、15歳の僕には、そう素直に言えなかった。(ダントツ1位)。(角田誠)
- ・17才の中島少年の心を揺らした大人の女の人の視線。なんといっても杉山登志!。(中島信也)
- ・若い女性と少年の目の出会い、杉山登志は数々の名作を残したが、目の化粧品としての完璧な作品。(中村誠)
- ・「見る、見られる」という化粧品らしいシチュエーションの中で秀逸。異性を少年に設定したところが心にいく。(山形孝央)



「構造改革の先にめざす日本の姿」アンケートの回答

内閣府経済財政諮問会議 再生シナリオ検討プロジェクトチーム p327-358 2001.11.22発行

(イ) 2010 年の国民生活の姿

【質問の狙い】

- ・2010 年頃の日本の国民生活は、「骨太の改革」によって、どのようになるとお考えですか。
- ・またそのような変化の方向性に対して、日本がとるべき最も重要な具体策について、お答えください。

【設問】

質問 1 国民の 3 つの不安の解消

- ・現在、国民が将来に向けていただいている不安として、「雇用」、「高齢化」、「地方の自立」に関する 3 つの不安が挙げられます。まず、その 3 つの不安のそれぞれについてお伺いします。

(2) 高齢化

- ① あなた自身の老後の最大の不安は何か。また、例えば団塊の世代などを想定した場合に、高齢者の不安としては何が大きいと考えるか。

橋爪大三郎	・最晩年の要介護期間の生活のかたがみえないこと ・団塊の世代の大部分が持ち家で貯蓄・資産を蓄えているとしても、必要な介護などのサービスを受けられる保障がなく、家族や子どもの世代に負担をかけながら最晩年をすごすかたちになりそうである。
-------	---

- ② 今後の高齢者の就業可能性についてどう思うか。また、そのために必要な条件は、雇用者側、雇用される側、それぞれ何か。

橋爪大三郎	・高齢者の就業可能性は高まる。在宅勤務やジョブ・シェアリング、フレックスタイムなど、高齢者の生活状況にみあった雇用環境が必要である。
-------	--

- ③ 高齢者を支える若年層の経済的負担が増大する可能性があるが、どうすれば世代間対立をなくすることができるか。

橋爪大三郎	・年金の原理を世代間再配分から自己拠出型に近づけると同時に、海外の起債や投資のほか、人口構成の異なる諸外国とのあいだで資金を移動する方法を考える。
-------	---

(3) 地方の自立

- ① そもそも「個性ある地方」「地方の自立」とはどういうことであると捉えているか。

橋爪大三郎	・市町村など地方自治体の自己統治能力が高まること。
-------	---

- ② 今後、都市部への集中が進む可能性があるが、人口の少ない地方は、どうすれば個性ある地方づくりを進めることができるのか、

橋爪大三郎	・人口の減少を恐れず、人口の少ないことを「資産」と考える必要がある。
-------	--

- ③ 地方自治体の適正規模は、どのくらいの人口規模か。(財政面、機能面から)

橋爪大三郎	・いちがいに言えない。人口密度の低い地域では、数千人でもよいと思う。
-------	--

- ④ 地方分権で最も重要な政策は何か。

橋爪大三郎	・財政の自立と、立法権（条例制定権）の強化
-------	---

(4) それ以外の不安

- 問 1 であげた「雇用」、「高齢化」、「地方の自立」に関する 3 つの将来不安以外で、現在、国民が強く不安に思っていると考えられることは何か。また、それへの対応策は何か。

橋爪大三郎	・治安の悪化、国力の衰退、安全保障の枠組みの脆弱さ、など。対応策は簡単にみつからない。
-------	---

質問 2 社会のあり方

- (1) 構造改革により、今後、国民の間でいろいろな格差（所得格差、世代間格差など）が拡大する可能性があるといわれているが、逆に、構造改革がもたらす最大の魅力は何か。

橋爪大三郎	・自由の拡大、機会の均等、努力が報われる社会。
-------	---

- (2) 就業、育児、介護などをめぐる環境が変化する一方で、晩婚化、非婚化が進んでいる。今後、家族が担う機能はどのようになるか。

橋爪大三郎	・子育ての機能、夫婦のきずなの機能の二つに集約され、それを越える親族のネットワークはだんだん弱まる（社会的サービスによって代替される）。
-------	--

- (3) 女性の社会進出は、今後、どのような業種でどの程度まで進むのか。また男女の役割は、今後どう変わるのか。

橋爪大三郎	・すべての業種で、いま以上に進む。男女の役割は、伝統的な専業主婦志向の女性（男女差マクシマム）からキャリア志向の女性（男女差ミニマム）まで、ますます多様性の幅を広げるだろう。
-------	---

質問 3 日本の明るい未来

- (1) 国民の将来の生活像を考える上で、明るい材料や要素は何か。

橋爪大三郎	・日本がこのままではだめだという認識が広まったこと。 ・自分が頑張らなくても誰かがなんとかしてくれるという甘い期待が一掃されたこと。 ・どんな事件や出来事にも当事者意識をもって関わる人びとの割合が増えたこと。
-------	--

(ウ) 国民のウォンツ

【質問の狙い】

- ・日本の今後の経済成長、産業の発展に寄与する消費者としての観点や、将来の社会に共有できる国民の夢、価値観を考えるという意味で、「国民のウォンツ」（国民が何を目標しているのか、何がしたいのか）をどのように捉えていますか。（年代別に想定されている場合は、年代を分けてお答えください）
- ・またそのような「国民のウォンツ」を引き出すためには、どのようなことが必要になるとお考えですか。

【設問】

質問 1 消費したい分野

(1) これから国民が積極的にお金を使っていくもの（こと）は何か。

橋爪大三郎	・教育（自己投資、労働力の付加価値、自己享受のため）
-------	----------------------------

(2) 今後、自由な時間が増えていくと見られるが、その過ごし方はどうなると思うか。

橋爪大三郎	・政治、宗教、コミュニティ活動
-------	-----------------

質問 2 消費を妨げる要因

(1) 消費が伸びないといわれるが、その理由は何か。何を变えることにより、消費が活性化すると思うか。

橋爪大三郎	・住宅取得コスト、住宅関連費用が高い。住宅が狭い。子どもの教育負担が高い。老後のため貯蓄する必要がある。 ・耐用性のある、広い住宅供給を増やす。学費を親でなく本人負担（奨学ローンによる貸付け）とする。グループハウスなど高齢者の自助努力による合理的な老後の仕組みを工夫する。
-------	---

質問 3 国民の夢、生きがい

(1) 日本人が伸ばすべき国民的特質は何か。

橋爪大三郎	・感性が豊かで繊細、柔軟で吸収力に富む、勤勉で創意工夫に熱心。
-------	---------------------------------

(2) 若者の夢はどのように変わってきていると思うか。

橋爪大三郎	・満足な子ども時代を送り、親が自立を奨励してこなかったため、野心的な向上心や冒険心に乏しく、夢を描きにくくなった。
-------	---

(3) 今までの日本は、高学歴を目指し大企業に就職することが大きな成功モデルとして考えられてきたとみられるが、今後どのような成功モデルが考えられるか

橋爪大三郎	・起業家モデル。専門職モデル。自由業モデル。
-------	------------------------

(4) 終身雇用が崩壊し、今後、雇用形態も多様化する中で、個人にとって「やりがいのある仕事」とは、どういう仕事だと思うか。

橋爪大三郎	・自分の成果が目に見えるかたちで他者に認められ評価される仕事。
-------	---------------------------------